

当園では、令和元年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や、園運営の状況を振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、さらに向上するための非常によい機会となりました。

今年度の学校評価結果を活かし、今後の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

清く・・・かがやく瞳

正しく・・・ゆたかな心

たくましく・・・のびゆく身体

かがやく瞳にであいたい。ゆたかなところを、そだてたい

教育方針

「自立心・自主性の育成」

・ 考える子

・ あそびの中で楽しく最後までやりぬく子

教育の特徴

1. 健康な心身をつくる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流を通して)
3. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培体験、飼育活動、行事を通して)
4. 豊かな感性、創造力、表現力を育てる。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然に身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「ごめんなさい」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「どうぞ」という 謙虚な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を理解する目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んで行くための姿勢を身に付けることを重点目標とする。また、自園の自然豊かな環境と少人数での教育保育環境の長所を認識し、環境を十分に活かした教育を行うことを重点目標とする。今年度も引き続き、異年齢保育の関わりを通し、同年齢保育の取組を深める中で、カリキュラムマネジメントの適切な実施に取り組み、園内研修を深め、職員の教育への振り返りの着眼点がどのように変化し、向上していくかを検討しながら、職員の指導力向上に努める。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。また、その為のどのような取り組みがなされているか。	A	教育方針や目標については、定期的な会議で職員間で話し合いや振り返りを行い、共通理解を深めている。教育方針を中心に、目の前の子どもの育ちや課題に応じて、柔軟に保育内容を計画するよう取り組んでいる。また、行事などの内容についても方針・目標に沿い、行事のねらいや目的を再確認すると共に、変化する社会や保護者のニーズ、も加味したものになるよう取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	カリキュラムの評価・反省を行い、日々の保育と計画に活かされるよう取り組んでいるか。	B	日々の保育の振り返りは、毎日、保育日誌、週案に記録し、週の保育の状況や子どもの姿を振り返り、次週の週案にも訂正を加えながら、常に子どもの育ちに沿ったものを意識している。また、月末に反省点をまとめ、翌月の保育と計画に活かしている。職員会議において、日常の保育内容や自由保育での子どもの見取りの重要点や、子どもへの配慮点について話し合い、課題を持ち、次の保育計画にいかしている。
3	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	子どもが主体的に生き生きと過ごし、遊びや経験を積み重ねていく保育を展開するためのプロセスとして、導入、興味づけの大切さを重視している。子どもの自由遊びの中からの興味や関心をもとに教師がカリキュラムを作成し、音楽や造形、体育遊び等、創造的な活動や身体全体を使って行う活動を多数実践している。中でも、園環境を生かした山登りやマラソン等、力を入れている。乳幼児期に育てたい10の姿を意識し、年長児教師は小学校との会議等で共有することで、円滑な接続に取り組んでいる。
4	教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為のどのような取り組みを行っているか。	A	子ども達が日常生活の中で異年齢の交流がもてるよう教師は配慮している。どの年齢の子どもも、自分のクラスや学年にとどまらず、自由に部屋を行き来し、関わり遊ぶ姿が日常ある。そこには、教師間の連携が必要であり、常に情報交換を行っている。登園後すぐに遊べる園内環境を整え、教師間が連携をとり、さまざまな保育室を行き来し、関わり刺激し合える環境をつくっている。異年齢交流保育(ウキウキデー)の実践を通し、子ども達が主体的に遊びを進めている。環境づくりにおいては、教師が子ども達の遊びの様子を観察し、どう環境を変え発展させていくかのポイントを職員間で話し合い、次の環境設定を行っている。その中で、特に子どもの自発的な動きや思いの提案を拾い上げ、環境に生かすように意識している。

5	研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	B	園内研修では、公開保育を実施し、職員間で教材研究を行い、研究意識を高めていけるように取り組んでいる。日常の教師と子どもとの関わりをその関わりの姿や、子どもの遊びについて、フリートークしながら、意見交換をした。様々な教師の意見や着眼点にふれることで刺激になり、視野も広がり、保育への取組の意識にも変化が見られつつある。 特に、保育目標の設定を重視し、その保育を通し、子どもの育てたい面、私たちの願い等は、しっかり持ち、ぶれないようにしてる。 乳児会議、幼児会議を行い、具体的な情報を共有し、それぞれの保育力向上に取り組んでいる。
6	安全管理体制の整備	安全管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	園内の安全点検を定期的に行い、修理等の対応も早急に実施している。避難訓練を分野ごとに毎月実施し、緊急時に備えている。また、不審者の侵入の供え、保護者や来園者の進入経路を少なくした。来園者への園内立入証着用を徹底した。地域の緊急情報があれば、保護者へ周知徹底している。災害時必要な水や備品などを確認し、備蓄している。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	B	登降園時の視診や、園児の様子に応じて、検温を行い、園児のその日の体調を把握し体調の変化に即時対応できるようにしている。 各保育室だけでなく、園内に消毒液を配置し、外部からの来園者にも積極的に使用してもらっている。手洗い、うがい、マスクの着用を促し徹底した。また、日頃の感染症の流行や対策等についても保護者への発信も行った。保育室内やバス乗降時、バス内シート、特に乳児の玩具、トイレの消毒等も日々徹底している。嘔吐などの処理のマニュアルの確認と徹底を行い職員間の意識を高めた。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	A	地域の老人施設への慰問や地域行事への参加等積極的に行った。また、プレゼント製作等、地域への協力にも努めた。 園での様々な栽培体験を通し、収穫した野菜を調理し食べることで、食への関心は高まっている。こどもバザーでは、収穫した野菜を販売するために、野菜の特徴を調べて買い手に伝えたりした。また、園内に生息する小動物を飼育、観察するなど、身近な自然との関わりを通して、いたわりや生命の大切さも感じる心を育むようにした。

【評価の基準】

A : 十分に達成されている B : 達成されている C : 取組はされているが十分でない D : 取組が不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	<p>指導計画の作成から、実践や振り返りについては取り組んでいる。縦のつながりを意識し、それぞれの反省・課題を職員間でさらに共有しながら、指導計画に反映していけるように取り組んでいきたい。「10の姿」も理解し、日々の保育を評価する軸としていく。</p> <p>近年の、子どもの様々な育ちの状況や、個々のおかれている家庭環境等も加味して、指導の観点を職員間でしっかりと共通理解していく必要があると考える。また、互いの保育を見せ合い、検討するなかで、子どもの育ちの実態と、育てたい子ども像を職員間で共有し、そのために柔軟に指導計画を変更していけるよう取り組んでいきたい。</p>
2	研修・研究への取り組み	<p>子どもの興味や関心に添った環境設定に取り組んでいるが、個々の能力に応じた柔軟な指導や関わりについて、さらに職員間で深めていきたい。そのためにも、講師の実践的な研修を計画し、すぐに活かせる内容を工夫していく。</p> <p>また、特別な支援を必要とする園児の個別の指導計画、研修を充実させ、園全体で、適切な支援に取り組んでいきたい。</p>
3	安全管理体制の整備	<p>災害の際の避難経路の再確認と、備蓄関係の整備も更に行いたい。また、災害時の対応について再度、保護者への啓発を行い、災害時に活かせる連携体制に努めたい。大地震などに備えた緊急対策について地域と連携し、具体的な避難経路などを示し、各家庭の状況を考慮しながら、引き渡し訓練も計画し、実施していきたい。小さなヒヤリも見逃さず、ヒヤリハットを生かし重大な事故を防止するためにも、安全に関する情報は、早く、広く共有できるようにする。</p>
4	保護者に対する情報発信	<p>保護者に対しての情報発信は、手紙・園だよりやクラスだより、ホームページによりおこなっている。園の保育のねらいや思いを保護者へ伝えることで、子どもの育っていく過程の大切さを感じてもらえるようにしている。保護者は、子どもの成長を比較的目的に見えたものとして結果だけにとらわれがちであるので、保育の過程で見られる子どもの心の動きや変化、乳幼児の年齢に即した発達段階という視点からの子ども理解を保護者と共有していけるような内容の手紙も作成していきたい。また、家庭での子育てにも活かしていけるように、発信していきたい。</p>

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。青山よさみ幼稚園の先生方の、職員間の連携、個々の育ちに沿った、一人一人への丁寧な関わりを、今後も継続してほしい。この学校評価での反省を活かして、来年度さらに向上されることを期待します。